

子ども読書応援プロジェクト
「子ども読書応援団推進事業」報告書

はじめに

十代で出会った人や本の影響力は、その人の一生を左右する大きなものがあります。本事業では、十代に豊かな本と出会うために、どのような取組をするとよいのか、文部科学省の支援のもと様々な実践を試みました。

本事業での「YA (ヤングアダルト)」とは、10歳くらいから20歳くらい、主に中・高校生の年代をさしています。子どもでもなく大人でもないこの世代は、行動範囲や生活の幅も広がり、流行にも敏感で、興味関心も多様化しています。図書以外にも関心を引くものが多く、図書館の利用者としては一番層が薄いのが実態です。

当委員会では、昨年度「地域の図書館サービス充実支援事業」を実施し、県内YA世代の読書に関する実態、公立図書館の実態、大学等のYAへの公開状況、読書ボランティアの実態等の調査や、YA世代に本を手渡す大人を対象とした講演会、ボランティア養成講座、交流会等を開催しました。またYA自身の活動の場となるボランティア実践活動、中・高校生ボランティア養成講座、交流会なども実施しました。さらに、出会ってほしい本のリストや図書館利用のためのパンフレット等も作成し、各学校等へ配布しました。

今年度は、昨年度の事業の成果を活かして、引き続きYA世代の読書推進のために取り組みました。まず、学校巡回講演会を行い、YA世代の読書と図書館の利用に関する実態を調査しました。本に関する講演やブックトークによる読書意欲の高まりは顕著なものがありました。教職員の皆様方からは生徒の最も身近な学校図書室の整備や、学校での読書推進の継続的取組があれば、さらに効果をあげることができたのではないかと指摘がありました。また、YA世代と本を結ぶ催しとして、本をテーマにしたパネルディスカッションとともに、オリジナルブックカバーやしおり制作等の体験コーナーを実施する一方、YA自身のボランティア実践活動、中・高校生ボランティア養成講座などを開催しました。さらに、YAからYAへ本を薦める紹介リーフレットの作成等にも中・高校生ボランティアのアイデアや力を活かしました。

これらの取組の成果を、県内各図書館あるいはYA世代に本を手渡す人たちの参考にさせていただくため、報告書にまとめました。

この報告書を通して、YAに本を紹介してくださる学校の先生方や、ボランティアの方、図書館職員の方などが、関係者相互の連携を図り、YAを取り巻く読書環境が少しでも豊かになるよう、その一助になるためのよすがとなることを期待しています。

本事業の実施にあたり、御協力をいただいた関係者の方々に深く感謝します。

平成20年3月

YA世代読書活動推進実行委員会
代表 大西 博臣

目 次

はじめに

I 事業概要	1
II 事業報告	3
III 事業で用いた手法の評価及び成果	13
IV 事業の成果の普及方法	17
V YA世代読書活動推進実行委員からの提言	18
VI 資料	20

- ・子ども読書応援プロジェクト 子ども読書応援団推進事業実施要項
- ・実行委員名簿
- ・「読書及び図書館の利用に関する調査」事前事後調査結果
- ・「読書及び図書館の利用に関する調査」(事前調査)用紙
- ・「読書及び図書館の利用に関する調査」(事後調査)用紙
- ・学校巡回事業(江田島市立能美中学校)
- ・学校巡回事業(広島県立大門高等学校)

1 事業の目的

子どもの読書意欲を向上させる機会を提供するため、多様な地域活動と連携した「子ども読書応援団」の派遣等を実施するとともに、子どもの発達段階に応じ、読書活動への関心と理解を効果的に深める取組等の調査研究を実施する。

2 事業の内容

(1) YA読書活動推進手法の開発

ア 学校巡回講演会

a 江田島市立能美中学校

中学2年生を対象にブックトークを行い、地域の図書館から利用案内を行なった。

当日・事前・事後アンケートを実施し、生徒の読書及び図書館の利用に関する実態を調査した。また当日・事業終了後教職員対象のアンケートを実施した。講演後、ブックリスト「Let's Read! 中学生にすすめる190冊」に掲載の図書を広島県立図書館から2ヶ月間貸出した。

b 広島県立大門高等学校

高校1・2年生を対象に本に関する講演会を行い、主幹図書教諭から利用案内を行なった。

当日・事前・事後アンケートを実施し、生徒の読書及び図書館の利用に関する実態を調査した。また当日・事業終了後教職員対象のアンケートを実施した。講演後、ブックリスト「2007 広島県のヤングアダルトに贈る99」に掲載の図書を広島県立図書館から2ヶ月間貸出した。

(2) YA読書推進啓発事業

ア YA向け推薦図書リーフレットの作成・配布・公開

平成18年度作成のブックリスト「2007 広島県のヤングアダルトへ贈る99」に掲載の図書等から、広島県立図書館中・高校生ボランティア「来いぶらり・フレンズ」(以下「来いぶらり・フレンズ」という)や県立図書館の職場体験実習生等十代の若者が、お薦め本の紹介文を書き、イラスト等も担当して作成した。

イ 「図書館へ行こう」月間

平成19年10月～11月に、県内図書館でYA向けの行事を実施し、広島県立図書館HP等で広報した。

ウ 「YA FAIR」

県内の有名人によるパネルディスカッションや、YA向け図書の展示、YA向け図書リーフレットの配布、「来いぶらり・フレンズ」の紹介、HPで見るYAサービス等を実施した。

(3) YA体験活動

中・高生の声を反映したYAサービスを展開するための手法開発の一環として、次の事業を行った。

ア 中・高校生ボランティア養成講座

「平成19年度中・高校生ボランティア『来いぶらり・フレンズ』養成講座」を実施した。

イ 中・高校生ボランティア活動

おはなし会、利用案内講座等の企画・運営を行い、「YA FAIR」の企画・準備、YA向け推薦図書リーフレットの作成に携わる等の活動をした。

3 期待される効果

- ・著名な作家等の講演及び意見交換により、中・高生の読書活動やボランティア活動への関心が高まる。
- ・平成18年度「地域の図書館サービス充実支援事業」の成果である「ブックリスト」等の内容をブックトークや展示等をとおして、直接中・高生や教職員、YA読書に関心のある大人に説明することにより、読書や図書館利用に関する関心が高まる。
- ・中・高生ボランティアが「YA FAIR」等の事業の企画に参画することで、中・高生の意見を反映し、より中・高生に身近な事業が実施できる。

平成19年度 子ども読書応援プロジェクト「子ども読書応援団推進事業」

1 背景

1ヶ月に、1冊も本を読まない中・高生の割合は、中学生21.9%、高校1・2年生42.2%（平成18年度広島県教育委員会調査）である。

2 要因

社会の変化

本を読む環境の不足

本とYAを結びつけるの不足

○情報入手の媒体の増加
○娯楽等の多様化

○身近な学校図書館、公共図書館等の環境の不足

○読書の楽しさを紹介してくれる人や場の不足

3 主旨

YA（ヤングアダルト）世代の読書活動への関心と理解を深める取組の調査研究

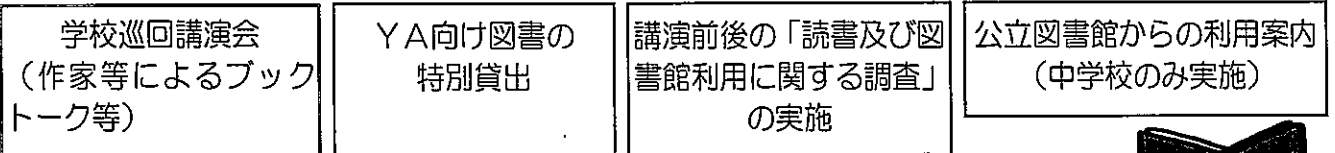
子どもの読書意欲を向上させる機会を提供するため、多様な地域活動と連携した「子どもの読書応援団」の派遣等を実施するとともに、子どもの発達段階に応じ、読書活動への関心と理解を効果的に深める取組等の調査研究を実施する。

4 平成18年度の実践（「地域の図書館サービス充実支援事業」）

お薦めの本のポスターの作成	推薦図書リストの作成	図書館学習用パンフレットの作成	講演会、ボランティア養成講座、研修会の開催	中・高校生ボランティア養成講座と活動の場の提供	中・高校生の声を活かしたYAコーナーの運営	中・高校生・公共図書館・読書活動ボランティアの実態調査
---------------	------------	-----------------	-----------------------	-------------------------	-----------------------	-----------------------------

5 事業内容

(1) YA読書活動推進手法の開発



アンケート調査等の分析による、講演、ブックトークと学校への図書特別貸出の効果の分析



(2) YA読書推進啓発事業

「図書館へ行こう」
月間の広報活動

「YA FAIR」の実施

- ・作家等の講演及び意見交換
- ・YA向け図書の展示

YA向け推薦図書
リーフレットの
作成・配布

(3) YA体験活動

中・高校生ボランティア養成講座

- ・作家等との出会いの場
- ・基礎力を磨く場

中・高校生ボランティア活動

- ・おはなし会
- ・利用案内講座等の企画・運営
- ・中・高校生のお薦め本情報の発信
- ・「YA FAIR」等の企画・運営



YA世代の読書活動への関心と理解を高める方法の検証と地域波及

Ⅱ 事業報告

1 YA読書活動推進 実行委員会

(1) 実行委員会

事業計画等に関する検討，事業結果に対する評価等について2回の委員会を開催し，報告書を作成した。

2 YA読書活動推進手法の開発

(1) 学校巡回講演会 中学校

日時	ブックトーク 平成19年10月2日(火)4校時(11:35~12:25) 事前アンケート 平成19年10月1日(月) 事後アンケート 平成19年12月10日(月)
会場	江田島市立能美中学校パソコン室
趣旨	子どもの読書意欲を向上させる機会を提供するため，子どもの発達段階に応じ，読書活動への関心と理解を効果的に深める取組等の調査研究を実施する
対象	江田島市立能美中学校生徒 2学年58名，教職員4名 保護者2名 計64名
内容	<p>ア ブックトーク授業 「わたしってなに？」本の紹介等(小林いづみ) 30分程度 能美図書館からの行事紹介(能美図書館職員)10分</p> <p>イ 調査事業 事前アンケート 1学年及び2学年生徒 10月初旬実施 当日アンケート 2学年生徒，教職員 事後アンケート 1学年(未聴講)及び2学年生徒(聴講)，教職員 12月中旬実施</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">事前・事後アンケート結果 資料3(P23)参照</p> <p>ウ 図書の一括貸出 広島県立図書館から中学校へ，ブックリスト「Let's Read! 中学生にすすめる190冊」(2006年発行)に掲載の本を一括貸出し，生徒の利用に供する。 (9月下旬送付，12月初旬返送)</p>
アンケート結果概要	<p>ア 事前事後アンケートから(回収数事前56 事後58) 資料3(P23)参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「以前より本をよく読むようになったと思う」のは男子31%，女子53%で，その理由としては，「ブックトークを聞いたから」が60%，「特別貸出の本があったから」「地域の図書館へ行くようになったから」が20%，「その他」が16%であった。その他の理由としては，「読みたい本があったから」5名，「友だちの薦め」4名，「映画・TVの影響」2名，「好きな作家」2名，「読みたくなったから」2名等があった。 <p>イ 当日アンケート(教職員)から(回収数4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークは生徒にとって良かったと評価する意見が多かった。 ・能美図書館からの紹介に対して，色々な取組を評価する意見が多かった。 <p>ウ 事業終了後アンケート(教職員)から(回収数8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一括貸出の図書があったことで，生徒の関心をひくことができたと評価する意見が多かったが，しばらくたつと利用が減ってきた，一括貸出の図書の内容は色々なジャンルがあったが，生徒自身の読みたい本とは少しずれていたのではないかという指摘があった。 ・先生による本の紹介については，「どんな本を紹介したら良いかが難しい」「新刊など中学生向きの本の情報を知りたい」という意見があった。また自分自身がブックトークを実践している方は半数だった。 ・事業の事前・事後指導を行い，年間を通じて取り組む等の重要性を指摘する意見が多かった。

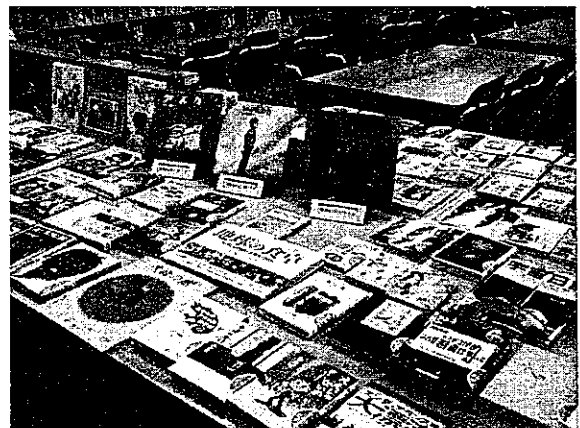
広報	中国新聞, 広島県教育委員会「わたしの・我が家の愛読書!」キャンペーン HP, 広島県立図書館「ヤングアダルトつうしん No. 7」(県内中・高等学校全校配布)
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師によるテーマを設けた本の紹介は, 生徒にとって目新しく, 読書への関心を高めるのに有効であった。 ・身近な公共図書館職員からの案内は, 親しみやすく利用意欲を高めるものであった。 ・一括貸出の本が身近にあることで, 生徒の関心をひくことができた。 ・読書・図書館利用についての教職員の理解を深めることができた。自身も初めてブックトークを見たという方もあり, その有効性を実感された。現場の教職員に関心を持ってもらったこと, 継続した取組の必要性を認識された意義は大きい。 ・事業直後は, 関心が高かったが, しばらくすると, 利用が減ってきた。年間を通じた取組が必要である。 ・学校・公共図書館担当者が連携して, 生徒への働きかけに取り組んでいく必要がある。



(2) 学校巡回講演会 高等学校

日時	講演会 平成 19 年 10 月 31 日 (水) (15:20~16:10) 事前アンケート 平成 19 年 10 月 18 日 (木) 事後アンケート 平成 19 年 12 月 5 日 (水)
会場	広島県立大門高等学校 体育館
趣旨	子どもの読書意欲を向上させる機会を提供するため, 子どもの発達段階に応じ, 読書活動への関心と理解を効果的に深める取組等の調査研究を実施する
対象	広島県立大門高等学校生徒 1 学年 304 名, 2 学年 315 名, 教職員 30 名 計 649 名
内容	<p>ア 講演会 「心が輝く時—絵本・詩の旅」(井野口慧子) 40 分程度 一括貸出の本の紹介 (齋藤主幹図書教諭) 5 分 謝辞 (生徒代表)</p> <p>イ 調査事業 事前アンケート 1 学年及び 2 学年生徒 10 月中旬実施 当日アンケート 1 学年及び 2 学年生徒 事後アンケート 1 学年及び 2 学年生徒, 教職員 12 月初旬実施 事前・事後アンケート 資料 3(P23)参照</p> <p>ウ 図書の一括貸出 広島県立図書館から高等学校へ, ブックリスト「2007 広島県のヤングアダルトへ贈る 99」(2007 年発行)に掲載の本を一括貸出し, 生徒の利用に供する。</p>

(10月中旬送付, 平成20年1月初旬返送)	
アンケート結果概要	<p>ア 事前事後アンケートから (回収数事前 600 事後 605)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読書の意義」については、ほとんどの項目で2~5%程度増えている。 ・「以前より本をよく読むようになったと思う」のは男子28%, 女子27%で、その理由としては、「本に関する講演を聞いたから」が18%, 「地域の図書館へ行くようになったから」が9%, 「特別貸出の本があったから」「先生から本の紹介をしてもらったから」が5%, その他が48%だった。 <p>その他の理由としては、「おもしろい本・読みたい本があったから」18名, 「友だちの薦め(借りる)」16名, 「自力/なんとなく/成長したから」11名, 「興味・関心が出てきた/本を読むことがおもしろいと思えるようになったから/本に目覚めた」8名, 「なんとなく/わからない」7名, 「朝読書」5名, 「携帯小説ができたから」4名, 「図書室に行くようになったから」4名, 「テレビ・映画の影響」3名, 「もともと好き」2名, 「暇だから」2名, 「好きな作家」2名, 「読解力のため」2名等があった。</p> <p>イ 事業終了後アンケート(教職員)から(回収数15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演は自身の体験と命に関わる話が印象的だったと評価する意見と、個人的な話が多く、もっと本の紹介をしてほしかったという意見があった。 ・生徒に良い刺激になった・本に関心が高まったと評価する意見が3名、絵本をその場で読んでもらってよかった、メモを取りながら聞いている生徒もいた、読書の導入として良かった、年に数回このような機会があると良い等の意見があった。 ・図書室のコーナーは興味を持てるようにディスプレイされていた、自分自身が忙しくて見に行けなかった等の意見があった。 ・以前から授業関連の図書を生徒に紹介しているという方が5名あった。新刊など高校生向きの本の情報を知りたいが6名、紹介する時間がないが6名、どんな本を紹介したら良いかが難しいが3名、本の紹介の仕方を学ぶ機会があれば行ってみたいが2名と、本の紹介や情報についての関心の高さが伺えた。
広報	山陽新聞, 大門高等学校HP, ライブラリーNEWS(大門高等学校), 広島県高等学校教育研究会図書館部会研究員会
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を中心とした命の大切さに関する講演は、生徒の感性に訴える内容であり、読書への導入となる内容であった。 ・一括貸出の資料を図書室で展示し、図書室の利用促進につながった。 ・教職員の生徒への本の紹介は関心が高かったが、「紹介する時間がない」「どんな本を紹介したらよいか難しい」等の意見が多かった。今後、教職員への図書に関する情報発信も必要である。



3 YA 読書推進啓発事業

(1)YA 向けリーフレットの作成

タイトル	ボクたちからのオススメ本★
内容	読書に関心の薄い十代の関心をひくための本の紹介リーフレット
掲載図書等	『プチ哲学』等 10 冊。「地域の図書館サービス充実支援事業」で作成した『2007 広島県のヤングアダルトへ贈る 99』等の中から、中高校生が選択し、解説文を作成。
印刷	A3 カラー両面印刷・折りたたみ 500 枚
配布先	県内公共図書館，関係機関，YA FAIR 参加者
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・十代の書いた紹介文は，会話口調のものもあり読みやすいものとなった。また表紙及びイラストを「来いぶらり・フレンズ」が担当し，折りたたみ形式でカラー印刷することにより，おしゃれな感じのものができた。 ・YAサービスの参考のため，公共図書館に配布した。 ・「YA FAIR」参加者に配布した。当日アンケートによると「本を読んだり選んだりする参考になった」とする人が 83%で，手に取りやすい形や親しみやすいイラスト等大変好評であった。 ・予算の制約により学校への送付はできなかった。今後HPや関係機関への広報を通して，十代の作るお薦め本情報の手法を広めたい。
広報	広島県立図書館HPで公開



(2)「YA FAIR」

日時	平成 19 年 12 月 8 日 (日) 13:30~15:30
会場	広島県情報プラザ第 1・第 2 研修室
趣旨	パネルディスカッションや本の展示などを通して，YA読書活動への関心と理解を深める。参加者アンケートを通して，読書啓発の効果を検証する。
参加者	対象 中・高校生・大学生を中心とする YA 世代，公共図書館・学校図書館関係者，YA 世代の読書に関心のある県民 参加 144 名
内容	<p>ア パネルディスカッション「ホントの楽しさ 発見！」(14 時～15 時)</p> <p> a パネリスト 青山高治 中国放送アナウンサー ★ジョージ★ 広島県立広島観音高等学校生徒 歌手 梵英心 広島東洋カープ内野手 西田篤 広島市こども療育センター愛育園園長 光原百合 尾道大学准教授 作家</p> <p> b プログラム パネリストの自己紹介，読書に関する思い出や本への思いについての意見交換，会場の参加者からの質問・感想等</p> <p>イ YA向け図書の展示 (13 時 30 分～) ブックリスト「2007 広島県のヤングアダルトへ贈る 99」掲載の本</p> <p>ウ YA向け推薦図書のリーフレット等の配布 (13 時 30 分～)</p> <p> a 「来いぶらり・フレンズ」作成のお薦め本リーフレット</p> <p> b 広島県教育委員会「わたしの・我が家の愛読書！」キャンペーンからの抜粋リーフレット</p>

	<p>エ YA向け資料等の展示・掲示・配布 (13時30分～) 「ヤングアダルトつうしん」、資料展示リスト、「広島県中学生・高校生のための調べ学習ガイド」、お薦め本のPOP</p> <p>オ 「来いぶらり・フレンズ」の活動紹介 (13時30分～) 活動写真などの展示</p> <p>カ HPで見るYAサービスの紹介 (13時30分～) a 広島県立図書館のYAのページの紹介 b 先進的なYAサービスHPの紹介</p> <p>キ 「作ろう！私のオリジナルブックカバー&しおり」制作 (13時30分～14時、15時～15時30分) * 「来いぶらり・フレンズ」のサポート</p> <p>ク 参加者アンケート</p> <p>ケ 「YA FAIR」ポスターの作成配布 (700部)</p>
参加者の感想	<p>アンケート結果から (回収数 82)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「YA FAIR」全体の評価は、「おもしろかった」「楽しかった」「来てよかった」が27%、「勉強になった」が5%、「来年度以降も継続して欲しい」が5%、「本に興味をもった」が4%であった。 ・「YA FAIR」に参加して「本を読んでみたいと思った」人は、90%であった。 ・パネルディスカッションについて「大変面白かった」が70%、まあまあおもしろかった」が24%であった。 ・個々のパネリストを評価している人が42%、人選とメンバーの構成を評価している人が35%であった。 ・行事の中でおもしろかったものは、パネルディスカッションが84%、オリジナルブックカバー&しおり制作が32%、図書館のリーフレットが30%、図書館の展示が17%、おススメ本のPOP紹介が17%、配布資料が12%、「来いぶらり・フレンズ」の紹介が11%、HPで見るYAサービスが7%であった。
広報	<p>ポスター・チラシ配布先：公立図書館、県内中学校、県内私立中・高等学校、公立高等学校等</p> <p>広報実績：広島県立図書館HP、県立高等学校長会、NHK広島「ひるまえワイド」、RCCラジオ「秘密の音園」、広島FM「DO THE CARP」、広島FM「タベのひととき」、広島東洋カープHP、(財)広島文化振興財団HP「ブンカッキーネット」、中国新聞、朝日新聞、読売新聞、リビングひろしま、ひろしまケーブルテレビ</p>
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者(アンケート回答者)の年齢構成は、YA世代が約60%、それ以外が約40%であった。パネリストの話への反応も良く、多彩な質問も出て終始明るい雰囲気だった。作家一人の講演ではなく、色々な立場の県内有名人のトークショー形式にしたことが好評で、気軽に参加して読書の楽しさを実感してもらえらる催しとなった。 ・展示・掲示やブックカバー&しおり制作では、熱心に見学・制作され、盛況だった。「学校や公民館での活動の参考にする」、「さらに作りたい」と制作材料を持ち帰る方もあった。制作コーナーにもう少し広いスペースが準備できると良かった。 ・「来いぶらり・フレンズ」やインターンシップ生が、キャッチフレーズの検討、ポスター作成、ブックカバー・しおりのイラスト作成、お薦め本のリーフレットの紹介文作成やレイアウト構成を行ったことで、十代の感覚を生かすことができた。



(3)「図書館へ行こう月間」

日時	平成19年10月13日(土)～11月18日(日)
会場	県内公共図書館
趣旨	県内公共図書館で実施される中高校生を中心とするYA世代を対象とした事業を、「図書館へ行こう」という統一キャッチフレーズで広報し、県民・YA世代の読書への関心を喚起する。
内容	<p>県内公共図書館で実施するYA対象の次のような行事情報を収集し、「図書館へ行こう」のキャッチフレーズを使用して情報発信する。</p> <p>(1) YA向け資料展示(テーマ別の本の紹介等)</p> <p>(2) YA向け行事(コンクール, 講演会・読書会, 交流会, アンケート等)</p> <p>(3) YA向け資料等の作成(YA向けの図書館利用案内, YA向け図書新聞, オススメ本の紹介等)</p> <p>(4) YAの体験活動(1日図書館体験等)</p>
各図書館の行事	<p>広島県立図書館「10代による10代のためのYA手書きポップ大賞」10/13～11/18</p> <p>広島市こども図書館「ライブラリーサポーターズ」本の修理と整理講座10/21</p> <p>呉市立図書館各館「YA(ヤングアダルト)を読む」10/11～11/15</p> <p>尾道市立中央図書館「ヤングアダルトのためのガイドブック」10/1～11/30</p> <p>尾道市立みつぎこども図書館「YAおすすめの本」10/13～11/18</p> <p>尾道市立因島図書館「一般雑誌リサイクル市」11/2～</p> <p>福山市沼隈図書館「チャレンジ・ザ・ミステリィ」10/6～11/4</p> <p>福山市新市図書館「図書館へ行こう～読もうYA!」11/10～11/15</p> <p>東広島市立中央図書館「金原瑞人翻訳本&原作本特別展示」11/10～11/15</p> <p>東広島市安芸津図書館「図書館においてよ!」11/3～11/30</p> <p>江田島市立能美図書館「創作文募集」10/1～10/31</p> <p>熊野町立図書館「めざせPOPスター」随時</p> <p>同上「ティーンズ図書館員募集」10/13～11/18</p> <p>同上「これはイチオシ!という本の紹介文募集」10/13～11/18</p> <p>北広島町図書館「本のお医者さん」10/27</p>
広報	<p>広報実績: 広島県立図書館HP, NHK広島「ひるまえワイド」, RCCラジオ「一文字弥太郎の週末ナチュラリスト」, 中国新聞, 西広島タイムス, 広島県立図書館「ヤングアダルトつうしんNo. 7」(県内中・高等学校全校配布)</p>
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県内図書館87館のうち, 18館で20件の催しが行われた。YAのためのコーナーを設置していない図書館も期間中資料展示を行う等, この機会にYAサービスに取り組むきっかけとなった。 ・広島県立図書館HPで「図書館へ行こう月間の県内行事一覧」を掲載することで, 他館の取組を参考にすることができた。 ・県内で複数館がYA向けの事業を行うことで, テレビ・ラジオ, 新聞等でも取り上げられた。

4 YA体験活動

(1) 中高校生ボランティア養成講座

ア 平成19年度図書館中・高校生ボランティア「来いぶらり・フレンズ」養成講座

日時	平成19年8月18日(土), 8月25日(土)(全2回)
会場	広島県立図書館会議室
趣旨	<p>中・高校生の社会貢献の一環として, 図書館などで, 子どもたちに図書館の使い方や本の楽しさを伝えるため, 本の読み聞かせや紹介などを行うボランティアとして活動するために必要な知識や技術を身につける。この講座では, 実習を交えながら, 特に, 本の選び方や読み方などの基本を楽しく学ぶこととする。</p>
対象	<p>中高校生 定員20名 参加 新規12名(中学生8名, 高校生4名), 「来いぶらり・フレンズ」4名 計16名</p>

内容	8月18日(土)	10:30~11:00	開講式・オリエンテーション	広島県立図書館職員
		11:00~12:00	講義・見学 「図書館って何? ボランティア活動って何?」	広島県立図書館職員
		13:00~14:30	講義・実習 「おはなし会って楽しいよ おはなし会をはじめる前に」	子どもと本を結ぶ安芸灘ネットワーク代表 小林いづみ
		14:30~15:00	実習 「絵本を選んでみよう」	広島県立図書館職員
	8月25日(土)	10:00~12:00	実習 「おはなし会にチャレンジ! やってみよう絵本の読み聞かせ」	おはなしポポロ代表 福田由紀子
		13:00~14:00	実習 「おはなし会にチャレンジ!」	グループ発表
	14:00~15:30	実習 「ミニおはなし会」	広島県立図書館職員・「来いぶらり・フレンズ」1~3期生	
			閉講式・交流会	
参加者感想	受講アンケートから ・「講座が大変参考になった」が75%、「参考になった」が25%だった。また「良い体験ができた」が76%であった。 ・受講の動機は、「本・子どもが好きだから」が75%、「図書館の仕事に興味があるから」が53%、「ボランティアとして活動したいから」が38%、「図書委員会の先生に言われたから」が46%であった。			
広報	ポスター・チラシ配布先：公立図書館，県内中学校，県内私立中等高等学校，公立高等学校等 広報実績：中国新聞，西広島タイムス，朝日新聞，リビングひがしひろしま，広島県立図書館「ヤングアダルトつうしんNo. 6」			
成果と課題	・おとなしい受講生が多かったが，熱心に講師の話を聞き，実習にも意欲的に取り組んだ。 ・読み聞かせのグループ練習時やミニおはなし会に，インターンシップの学生も加わり和やかな雰囲気を実習できた。 ・「来いぶらり・フレンズ」のうちさらにレベルアップしたい人や利用者ボランティアの参加もあり，お互いに刺激を受けていた。			



イ 中・高校生ボランティア「来いぶらり・フレンズ」ステップアップ講座

日時	平成19年8月17日(金) 13:00~16:00 平成19年8月22日(水) 10:30~16:00 平成19年8月23日(木) 10:30~16:00
会場	広島県立図書館
趣旨	「来いぶらり・フレンズ」の活動の場である「小学生のための図書館活用講座」の企画参加・準備を行い，参加する小学生の視点に立ってサポートできるよう練習する。また，「YA FAIR」の事業企画を行う。
参加者	対象 「来いぶらり・フレンズ」，インターンシップ学生 延べ参加人数 18名

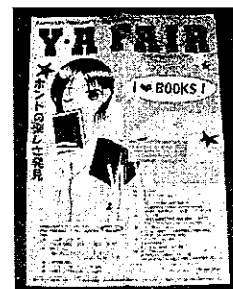
内容	ア「小学生のための図書館活用講座」打合せ・練習 イ「YA FAIR」の企画 広報ポスター（キャッチコピー）の検討 催しの計画，パネリストの人選
参加者感想	・活用講座までにシナリオを覚えられないといけない。 ・子どもの気持ちを考えて，声をかけたい。調べ方をうまくアドバイスできるようにしたい。 ・「YA FAIR」楽しみです。 ・大学生と話せて，進路の参考になった。
成果と課題	ア 「小学生のための図書館活用講座」打合せ・練習 ・実際に自分達も調べものクイズに取り組み，講座のポイントを理解できるよう努めた。また事前に辞典類を確認して，特徴や掲載事項を把握し，小学生のサポートができるよう備えた。子ども自身に考えさせ体験してもらう講座という目的を伝え，子どもとどう関わるかをあらかじめ考えることで，子どもの立場に立って支援する意味を理解できた。 イ 「YA FAIR」の企画 ・「YA FAIR」は「来いぶらり・フレンズ」自身も楽しみにしている様子で，キャッチコピーの案をたくさん出し合うことができた。また気軽に楽しめる催しとして，オリジナルのブックカバー&しおり作りの提案があった。さらにパネリストの希望等も話し合った。 ・活用講座の練習時間の合間に「YA FAIR」の企画を行ったが，お昼を食べながらも意見を出し合って，交流を深めた。

(2) 中高生ボランティア活動

ア 定例活動

延べ参加者数 48 名（20 年 1 月 22 日現在）

活動内容	・おはなし会，利用案内講座等の企画・運営 ・「来いぶらり・フレンズ」ステップアップ講座による企画・運営（前出 ステップアップ講座） ・「YA FAIR」企画，ポスター作成 ・YA向けリーフレットの作成（「ボクたちからのオススメ本」，「愛読書（中学生編）」「愛読書（高校生編）」 ・「YAつうしん号外」第2号，第3号の編集作成 ・広島県立図書館YAコーナー YA向け図書案内のポップ作成
広報	NHK広島「ひろまえワイド」，朝日新聞，（財）ひろしま文化振興財団HP「ブンカッキーネット」
成果と課題	・YA向けリーフレット・「YA FAIR」ポスターの作成等自分の得意を生かして取り組んだ。 ・「YAつうしん」号外は，読みやすい形にするためにイラスト・構成等何度も作り直した。編集を希望する人が都合の良い時に来館して作業を行った。 ・図書案内のPOPは，行事の際に作成したり家で作ったものを持参したりして，意欲的に取り組むことができた。 ・定例のおはなし会の他「ひろしまおはなしの旅 2007」，「パパと楽しむおはなし会」等読み聞かせの機会を重ねて，少しずつレベルアップしている。



イ おはなし会、行事などの企画・運営

・中高校生ボランティア養成講座（再掲）

日時	平成 19 年 8 月 25 日（土）
会場	広島県立図書館会議室
趣旨	初めて絵本の読み聞かせを行う中・高校生といっしょになっての練習をとおして、自らの読み聞かせ技術のスキルアップをはかるとともに、新規生との交流を持つ。
対象	「来いぶらり・フレンズ」 4名
参加者感想	・新たに参加している中高校生が予想より上手で、やる気をももらった気がする。 ・実際におはなし会をされている人の話を聞くことや指導してもらうことができた。
成果と課題	・既に活動している「来いぶらり・フレンズ」も、新規生に刺激を受け、改めて学ぶ良い機会となった。 ・ミニおはなし会では翌日に行うおはなし会ウィークでの手遊びを実演したことで、新規生にも参考になった。

ウ 小学生のための夏休み図書館活用講座

日時	平成 19 年 8 月 22 日（水）、23 日（木）13:30~14:30	
会場	広島県立図書館	
趣旨	夏休みの小学生を対象に、図書館の資料を活用して、「探す」「調べる」「参考にする」方法について学習する機会を提供し、今後の図書館利用の促進を図る。	
参加者	対象 小学校 3~6 年生（保護者同伴可） 8/22 小学生 7 名、保護者 3 名、幼児 1 名、「来いぶらり・フレンズ」3 名、インターンシップ学生 4 名 8/23 小学生 6 名、保護者 1 名、「来いぶらり・フレンズ」3 名、インターンシップ学生 4 名	
内容	「宿題なんて、こわくない！」 調べものの基本を寸劇で紹介し、夏の風物や広島等についてクイズ形式で出題し百科事典等で調べる。夏休みを機会に、宿題や遊び等に役立つ調べ物の方法を楽しく体験する。	広島県立図書館職員 「来いぶらり・フレンズ」
参加者感想	（来いぶらり・フレンズ）元気な男の子が多く楽しかった。二人の子に同時に話しかけられた時は困った。わからなくて固まってしまった子に、どう声をかけるかが難しかった。つい答えを教えてしまった。	
成果と課題	・17 日のステップアップ講座以後各自よく練習して本番に臨むことができた。 ・子どもの気持ちになってみようと言ったことで、積極的にこちらから関わろうとする姿勢が見られた。調べ物クイズでは、子どもにアドバイスしながら、事典を紹介したり、探し方を確認したりと効果的に支援することができた。	



エ 夏休みおはなしかいウィーク (6日間のうち1日を担当)

日時	平成19年8月26日(日) 11:00~11:40	
会場	広島県立図書館	
趣旨	子どもたちが、おはなしの世界の楽しさを参加者と分かち合い、自ら本に親しむことができるよう、本やおはなしに触れる機会を提供し、もって、子どもの読書活動の一層の推進を図る。	
参加者	対象 幼児 児童生徒 保護者 おはなし会に関心のある県民 「来いぶらり・フレンズ」2名	
内容	おはなし会 絵本の読み聞かせ、手遊び等	広島県立図書館職員 パパボランティア 「来いぶらり・フレンズ」
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「来いぶらり・フレンズ」も会を重ねる毎に読み聞かせのレベルをあげている。また他の人の読み方を参考にして、刺激を受けている。 ・練習時間に自分達で手遊びを工夫し、参加者がやりやすいようにアイデアを出しあった。 	

オ 青年地域貢献活動「やる気じゃネット！青春じゃけん」実践交流会

日時	平成19年11月25日(日) 10:00~16:40	
会場	広島県立生涯学習センター	
趣旨	県内各地で実施されている青年の地域貢献活動を促進するため、活動グループ・サークルが一堂に会し、活動状況を発表し、お互いの交流を深める実践交流会を開催することによって、グループ・サークルのネットワーク化を図る。	
参加者	「来いぶらり・フレンズ」 2名	
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県内各参加グループ・サークルの人と交流ができた。 ・活動内容を他の人に知ってもらうことができた。 ・「YA FAIR」の紹介をすることができた。 	

カ 「YA FAIR」

日時	平成19年12月8日(土) 11:00~16:30	
会場	広島県立図書館、広島県情報プラザ第1・第2研修室	
趣旨	「YA FAIR」において、行事の企画・運営参加することによって、読書に関する関心を高める。	
参加者	「来いぶらり・フレンズ」 13名(中学生3名 高校生2名 大学生8名)	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・行事事前打合せ、会場設営、展示準備 ・会場受付、会場案内 ・展示解説、「作ろう!私のオリジナルブックカバー&しおり」作成補助 ・パネルディスカッション参加、質問補助 ・展示片付け、会場片付け ・反省会 	
参加者感想	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヤングアダルトつうしん」とか「オススメ本のPOP」等参加者が口々に「すごい」と感心しておられてうれしかった。 ・ブックカバー&しおり制作のところ人が多く集まっていた人気があった。 ・学校の先生も来ていてブックカバーを学校でも紹介したいという人もいた。 ・とてもおもしろくて、時間があっという間に過ぎた。 	
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現在登録しているメンバーの3割近くが参加し、1期生から5期生までの交流にもなった。 ・準備・片付け等は大学生が積極的に声を出して、中・高校生をリードできた。 ・ポスター・チラシ・オススメ本POP・図書紹介リーフレット等「来いぶらり・フレンズ」の活動成果を披露することで、自分達の活動への充実感を再確認できた。 ・参加者へのサポートも、分担してスムーズに行えた。 	